

岩手日報令和3年4月28日付朝刊(23)

命救うドクターカー栄誉



八戸市の八戸工大（坂本禎智^{のりゆき}学長）工学部機械工学科の浅川拓克^{たくかつ}准教授（52）＝二戸市在住＝と今明秀八戸市立市民病院長（62）は本年度の文部科学大臣表彰・科学技術賞（開発部門）を受賞した。へき地救急医療の課題克服のためのドクターカーによる移動型緊急手術室の開発が評価された。浅川准教授は「東京ではこの発想はないが、地方を見ると救える命がある」と医工連携の成果を喜ぶ。

八戸工大・浅川准教授（二戸市在住）ら

同大で27日、表彰式が行われ、坂本学長が浅川准教授と今院長に賞状と記念の盾を手渡した。

浅川准教授らは2012年から研究を開始。心肺停止発生から60分以内に人工心肺装置「ECMO（エクモ）」による高度な体外循環し、今年3月末時点で計19件出動。心肺停止となった7人のうち3人がエクモによる治療に成功した。へき地医療問題は全国共通の課題で、浅川准教授は「岩手をはじめ、北東北や北海道などからも問い合わせがある」とドクターカーの広がり期待。今後は第5世代（5G）移动通信システムを活用した開発を進める。

「手術室」開発 文科大臣表彰



八戸市立市民病院で運用している「ドクターカーV3」（八戸工大提供）

浅川准教授は11年3月まで盛岡中央高の自動車科教諭として18年間勤務した。（木村 亮）

文部科学大臣表彰・科学技術賞を受賞した浅川拓克八戸工大准教授（右）と今明秀八戸市立市民病院長

※この記事・写真等は、岩手日報社の承諾を得て転載しています。